

CMSC帯広 小林康弘選手

CONGRATULATION!

全日本ラリー 第1部門 Bクラス シリーズチャンピオン決定! ラリーアート・ドライバー・オブ・ザ・イヤー受賞!



シリーズチャンピオンが決定した小林選手の走り(第9戦)。

'97年の全日本ラリー最終戦「CMSCラリーハイランドマスターズ」は、10月18～19日、岐阜県「モデウス飛騨位山スノーパーク」をスタート・ゴールとする3ステージに、60台が参加して行われました。総距離は約350km、SSは9本の計約33km。

Bクラスの主カマシ・ミラージュは向かうところ敵なしの31連勝中。これまでミラージュ同士の激しい優勝争いが繰り広げられてきました。しかし今回はライバル、トヨタ・カローラが終始ミラージュとのトップ争いに加わり、息を呑む接戦となりました。

第1ステージではCMSC道北・鎌田豊選手がトップ。第2ステージではカローラの森選手が代わってトップに立ち、ミラージュ、カローラ入り交じっての激しい戦いとなります。そして、最終ステージ。最終SSでトップタイムを叩き出したCMSC愛知・松井孝夫選手が、見事、逆転優勝。松井選手は今季2勝目で最終戦を飾り、ミラージュの連勝

記録も"32"となりました。

シリーズポイントでは、第6戦までに優勝と2位を2回ずつ獲得したCMSC帯広・小林康弘選手が見事逃げ切り、シリーズチャンピオンに輝きました。シリーズ本格参戦3年目の'97年、長年住み慣れた北海道を離れ、長野へ移り住んだ小林選手。区切りの年に相応しい活躍で、ラリーアート・ドライバー・オブ・ザ・イヤーの受賞も決定しました。Bクラスは以下2位から8位までをミラージュ勢が独占。うち、CMSCクラブ員が4人を占める大活躍でした。'98年も激しい戦いになりそうです。



ダブル受賞に感謝しています。
CMSC帯広 **glad!**
小林康弘

今シーズンを振り返りますと、前半の好調が、後半3戦も続けば更に良かったのですが、やはり全日本タイトルを取るとなると、かなりのプレッシャーとなりました。今年なによりも嬉しかったのは、第6戦、地元北海道でのダートイベント初優勝でした。プライベート1年目にしてこのような結果が出せるとは、正直思ってもいませんでした。全日本ラリーBクラスシリーズチャンプとラリーアート・ドライバー・オブ・ザ・イヤー受賞とで二重の喜びです。来シーズンも、より一層の努力をしていきたいと思ひます。

CMSC群馬 山口利久

ラリーオーストラリア、メカニック参戦記

10月30日～11月2日に行われた'97WRC第13戦ラリーオーストラリアに、三菱ランサーディーラーチームのメカニックとして参加してきました。現地ではRAA(ラリーオーストラリア)と合同で篠塚建次郎選手とエド・オーディンスキー選手の2台をサポートし、事前の車作りからラリー本番中の作業まで、ありとあらゆる事をさせていただき、とても素晴らしい経験になりました。

ラリー3日目の篠塚選手の体調不良からの棄権はとても残念でしたが、RAAのオーディンスキー選手を最後まで走り切らせる事ができ、初のGrAでの参戦でオーストラリアドライバーでは1位、総合でも6位と大活躍。RAAのスタッフら皆で完走した喜びを分かち合うことができました。

ラリー途中ではグラベルカー(ラリー車の先を走り、天候、路面状況などを伝える車。ランサーEvoIII)から「コース途中でタイヤが折れて止まっているのですぐに来てくれ」という連絡を受け、サザンクロスラリーで有名なダグ・スチュワート氏と共に出張修理に行くというハプニング?もありました。この事は今思い返すと、RAAのチーフメカニックが私の技術力を認めてくれ、大勢のスタッフの中から私を行かせてくれたのだと思います。とても凄い事だったと改めて感じるとともに、自分にも自信を持つことができました。

今回のラリーを通じて、一つの事を皆で力を合わせ乗り越える事の素晴らしさを感じました。初めはこんなに大事な部分までさわらせてもらって良いのだろうかという戸

三菱ランサーディーラーチーム 2週間の素晴らしい経験。

惑いもありましたが、どんどん作業を進めて行くうちに、私達の方でラリー車を作り、皆で協力し、何が何でもゴールさせるのだという気持ちになってきました。ドライバーとも強い絆で結ばれ、私達を信用して全開で走り、ゴールしてくれた時には、何ものにも代えられない幸せな気持ちで一杯でした。GrAカーの構造等とても勉強になり、とにかく日常業務では経験する事のない、様々な事があった2週間でした。

最後になりましたが、このようなチャンスを与えて下さった皆様、この場をお借りして御礼申し上げます。また、CMSC会員で三菱ディーラーのメカニックの方がおりましたら、'98年度は是非チャレンジしてみてください。必ず素晴らしい体験ができると思います。本当に楽しい2週間でした。



右、篠塚建次郎選手とボブ・ライリーディレクターの前で緊迫感がうかがえる山口氏のメカニック作業。左上、篠塚建次郎選手の走り。左下、オーディンスキー選手の走り。

CMSC山形 赤羽政幸

ラリーインドネシア参戦記

9月19～21日の3日間、インドネシア第2の都市メダンを中心に開催された'97WRC第11戦ラリーインドネシアに参戦しました。9月9日に現地へ入り、レッキも多少のトラブルはあったものの割りと順調に消化する事ができ、本番に臨みました。今回はマネージャー、サービスがニュージーランド人、オーストラリア人の混成チームだったのですが、昨年のオーストラリアラリー以来の仲間なので非常にいいチームワークでラリーを楽しむことができました。

ラリー初日は総合15位、クラス3位。途中から雨になってしまい、アイスバーンのように滑る路面はリタイヤ続出で、サバイバルラリーになってしまいました。

サバイバルラリーでクラス5位!

2日目はバンクで4分ほどタイムロスをしてしまい、クラス6位まで後退。何とか一つでも順位を上げたいと頑張った最終日でしたが、またもやバンクに見舞われ2分ほど遅れてしまいました。そこで、無理をせず完走することに気持ちを切り替え、総合15位、グループN5位という、とてもよい成績でフィニッシュすることができました。表彰式ではプライベートで最上位ということでトロフィーまで頂きました。

ここまで応援して下さった、たくさんのスポンサーの皆様には、ただただ感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



やった! クラス5位。力を合わせた結果ですね。

CMSC大阪 岩下利勝

ラリーオーストラリア参戦記

'97WRC第13戦ラリーオーストラリアにはドライバーとして2年目のエントリーとなりました。昨年は雨が降り、路面はスリッピーで大変悩まされました。しかし今年は10月30日～11月2日と、昨年より1ヶ月も遅い開催の為、路面が大変乾燥し、すさまじいほどに積もったダストが舞い、それと重なる西日に大変苦戦しました。

まずレッキでは小動物を避け損ね、持ち込んだレッキ車を壊してしまいました。翌日借りたレンタカーは最悪で、エンストばかりしてレッキどころではありませんでした。

初日はバースト、スピン2回、挙げ句の果てにフロント

苦戦しつつも無事、完走。

ガラスまで割ってしまいました。2日目は砂ぼこりと西日で前が良く見えずに何度もストップせざるを得ませんでした。3日目はSS23でコースアウトしましたが運良くコース復帰でき、無事フィニッシュできました。

レッキからいろいろと苦労が絶えませんでした。総合34位、グループN16位という結果が出て大変嬉しく思っています。これもいろいろとご協力くださった皆様のおかげだと、感謝しております。来年もチャンスがあれば、ぜひ参加したいと思っています。



完走に思わずランサーイの岩下選手。

CMSC愛知 松井孝夫

全日本ラリー第9戦Bクラス優勝記

全日本ラリー選手権シリーズ最終戦「MCSCLラリーハイランドマスターズ'97」は岐阜県高山市を中心とし、10月18～19日に開催されました。このハイランドマスターズは今回で第25回を数えるという非常に歴史のある大会です。その巧みな設定のせいか毎年数々のドラマがあり、我々を存分に楽しませてくれるため、私の最も好きなラリーのひとつです。98年の選手権規定変更により、CJ4 AミラージュRSにとって最後のハイランドマスターズとなるためか、我々Bクラス戦士はいつも増して気合いが入っているようで、スタート会場には異様な雰囲気が漂っていました。私はこのラリーを今季一年心がけてきた、精神面のコントロールを重視した戦い方の集大成にしたいと考え、また接戦のシリーズ3位争いを眺みながら、最後まで悔いのないように走りきることを目標に挑みました。

第1ステージは序盤といえどもSS距離は長く、気の抜けない設定。最近調子をあげてきたカローラ2台が好タイムを並べて、トップ集団を形成していました。作戦通り抑え気味の私はベストタイムは1本のみでしたが、まずまずのタイムでトップと4秒差の4位。車もドライビングも好調だったため、気を良くする事ができました。

第2ステージは、SSはそこそこのタイムで走れたのですが、ハイアベでいまいち気合いが乗らずに少々遅れてしまいました。順位は、好調のカローラ森選手がロングSSでぶっちぎりのタイムを出して2位に6秒差の単独トップ。私は11秒差の7位に落ちてしまいました。Bクラス戦士の

収穫の多かったこの1年。

気合いの現れか、シーズン最終戦にふさわしい僅差の大接戦となっていました。

最終の第3ステージ。97シーズンもあと舗装ロングハイアベとSS2本を残すのみ。舗装が得意な私は、スタート前から勝負所と見ていた舗装のロングハイアベでスタート。ぶっちぎりのベストタイムを出して一気に2位にジャンプアップしました。このハイアベは私の順位を上げただけではなく、私を調子づかせてくれました。この時点でSS2本(約7km)を残してトップのカローラ森選手にはあと7秒。私は最後のこの2本を気負うことなく無心で走る事を心がけ、その結果、今シーズンの集大成にふさわしい渾身のアタックに成功し、最終SSのベストタイムによりトータル1秒差で逆転優勝することができました。

今シーズンは諸先輩方の指導の元、精神的な自己コントロールをテーマとして取り組んできました。それによりこれまでは1つのコーナーや1つのSSしか見ていないようなミクロな取り組み方であったことに気づき、ラリー全体やシーズン全体というマクロでとらえることができてきたように感じます。その成果として、今回の優勝やシリーズ3位入賞ができたことに大きな達成感を感じています。ラリーは精神力の勝負であることを身を持って感じ、それ故にこれまで以上にラリーに魅力を感じるようになった有意義な1年でした。来シーズンも更なる飛躍を目標に頑張りたいと思います。



シャンパンシャワーで喜びを表わす松井選手(左)。

CMSC島根
10月12日

CMSC島根
チャレンジカップ
ダートトライアル

年4戦の「日本海ダートラシリーズ」は今回が最終戦。しかもほとんどのクラスでチャンピオンは最終戦で決定ということもあり、激戦、激走が繰り広げられました。特にAIIIクラスのチャンピオン争いは、上位3台のエボリューション勢がほぼ同ポイントで並んでいましたが、結局Evo IIの勝利となりました。来シーズン、噂のEvo V(「ブイ」とも読めるところがグッドですね)がさらに戦いを激しくしそうで、今からとても楽しみです。また、1トライ目では転倒しながらも2トライ目で逆転優勝した元全日本選手もいて、熱い「ダートラ屋敷」を見たような気がしました。

最後まで激戦、激走!



あたり一面のススキ野原にも、もうしばらくすると雪がちらつきます。冬の雪路練習を経て、また来シーズン、主催、エントリーに頑張ろうと、クラブ員一同、

シーズン終了にあたって決意を新たにしました次第です。
(CMSC島根 古藤浩美)

CMSC仙台
11月16日

CMSC仙台
もみじ狩り
ダートトライアル

宮城県シリーズ最終戦となりました、CMSC仙台主催のダートトライアルは、仙台ハイランドで行われました。エントリー台数はクロズドクラスを含め、なんと123台。埼玉や新潟からのエントリーもありました。

当日、天気は快晴。コースのコンディションも良好で、絶好のダート日和となりました。競技は白熱したバトルが繰り広げられ、2ヒート目にはタイヤがバーストしたり、転倒があったりとアクシデントが続出しましたが、大きなトラブルはなく無事終了しました。今回の大会開催にあたりご協賛下さいましたスポンサー各位、お手伝い頂きましたスタッフの皆様、この場をお借りして御礼申し上げます。
(CMSC仙台 相沢葉子)

秋晴れのもと123台が集合!



全員集合すると盛況さがわかります。



CMSC岐阜 篠田大作

オールスターダートラAⅡクラス優勝記

まず最初に私のオールスター2連勝に際してサポートしていただいた皆様と、これまでのモータースポーツ活動においてサービスそしてアドバイスしていただいた皆様に心より御礼申し上げます。本当に本当に本当にありがとうございます!

今回のオールスターを振り返ると、昨年同様、大会初日はウェットコンディション。2日目は初日より路面は乾いたもののタイヤ選択に悩まされ、サービスの皆様には面倒をかけました。昨年の優勝は初日のタイムで決まってしまったので、逃げ勝ちと言われないよう、今年は実力で勝ちたいと思っていました。そんな思いと執念が実ったのか、初日の3位から2日目まで逆転優勝できて、本当にうれしかったです。

98年はJAF車両規定により、私にとっては精神的、金銭的に非常に苦しいと思いますが、ご支援、ご協力いただいた皆様の気持ちに応えられるよう、自分のできる範囲で精一杯がんばりたいと思います。

実力発揮で2年連続優勝!



オールスター戦の優勝で締めくくった篠田選手の雄姿。

CMSC愛知
10月19日

CMSC愛知
ダートトライアル

10月19日、岐阜県スキーリゾートダイナランドにてダートトライアルを開催いたしました。当クラブとしては初の主催イベントでしたが、無事に終了出来ました。これもひとえにご協力していただいたCMSC本部その他関係者の皆様のおかげと感謝しています。

無事終了、メモリアルイベント。

また98年は5月31日を皮切りにダイナランドにて東海シリーズが4回、地方選手権が2回、練習会が2回行われますが、内7月26日の東海シリーズ第6戦は当クラブの主権が決定しました。また、ご支援ご協力をお願いいたします。
(CMSC愛知 小玉憲司)



地方選手権優勝者レポート

CMSC香川 富谷利幸

9月6~7日 FG地区ラリー第5戦CCMラリーミーティング

BⅡクラス1位

11月1~2日 FG地区ラリー第7戦チェリッシュつちの子ラリー

BⅡクラス1位



'96年後半から本格的にラリーを始め、意外と好成績を残せたため、'97年はシリーズチャンプを目標に参戦しました。しかし練習&メンテナンス不足のため、開幕からの2戦をリタイアしてしまい苦しい状況に……。そこで3戦以降、練習・メンテナンスに力を入れ、次第に自分の走りができるようになりました。'98年は車両規定が変更となり、多少不安はありますが、これまで同様ミラージュで参戦したいと思います。

CMSC香川 三木利夫

10月12日 四国ダートラ第10戦ADVANTトライアル

AⅢクラス1位



これまではスターレットでAⅢクラスを戦っていましたが、今季からC83Aミラージュで戦っています。昨シーズンまでは4位入賞が最高位でしたが、ミラージュになって念願の初優勝を手に入れる事ができ、おまけにオールスターダートラにまで出場しました。来季はシリーズ優勝を目標にします。

CMSC大阪 秋間忠之

9月21日 九州ダートラ第9戦CRMCダートラIN九州

Dクラス1位

10月5日 九州ダートラ第10戦トライアル・サ・九州

Dクラス1位



今回、オールスターダートラの練習を兼ねて九州ダートラに参戦し、ランサーで優勝することができました。特に10月5日の最終戦では、女房の小出久美子選手と1,3フィニッシュを飾ることができ、とてもうれしかったです。今季は3年連続で関東ダートラDクラスチャンピオンを獲得することができました。'98年もランサーEVOⅣで全日本ダートラにチャレンジしていきたいと思っています。

CMSC香川 白井修

9月14日 四国ダートラ第8戦SKNCTトライアル

AⅢクラス1位



'97年はAⅢクラスがおいしそうに思えたので、C73Aミラージュでの参加を決めました。('96年まではAⅣにランサーで参戦)しかしAⅢの常連もなかなか手強い! やっと第8戦にして優勝できました。AⅢもそう甘くはないと思い知らされました。

CMSC島根 古藤浩美

コトーの連続コーナー ⑧

大予想



ゆととは
四五年後
には?





CMSC仙台 高橋しげる

東北クラブマンズカップN1耐久レース優勝記

晩秋の紅葉が最高の見頃となった11月9日、仙台ハイランドレースウェイで、東北クラブマンズカップ耐久300kmレースが行われました。この耐久レースはミラージュの他、シビック、スターレット、マーチ、カローラ/スプリンター等による混合レースであり、また、予選と決勝を1日でこなすスケジュールとなっています。

当日は絶好のレース日和。予選は朝10時10分から30分間行われ、序盤からトップタイムを叩きだし、無事ポールポジションを獲得しました。

決勝は12時35分にコースイン。1周のフォーメーションラップ後、75周回、300kmに及ぶレースが始まりました。序盤はトップ3台による抜きつ抜かれつの展開。途中、規定によりピットインを4回行う必要があり、20周あたりから立て続けに3回ピットインを行いました。その為、多少順位が変わり、5〜6位のキープとなります。40周目頃、セカンドドライバーに交替。ピットイン規定もクリアしその後コンスタントに順位を上げていきます。ピットイン回数をクリアしていない為、タイム差が開いていく他車を尻目に、ラストに近づくにつれどんどんペースを取り戻し、トップでチェックオフフラッグを受けることができました。'97年レースの最後

ポール・トゥ・ウィンで最高の締めくくり。



好調の波に乗る高橋選手とその走り。

を優勝で締めくくることができ、喜びもひとしおでした。今回は他社勢を押さえての優勝で、ミラージュの確かな走りを実証してくれたレースでもありました。

また、今季はミラージュ東北シリーズ・フォーラスカップでシリーズ2位になることができました。全5戦中3戦を制

することができましたが、残り2戦がいずれも3位でチャンピオンには今一步及びませんでした。しかし良いシーズンでした。応援してくださいました皆様、本当にありがとうございました。

ミラージュ カープラザカップ・シリーズ

CMSC栃木・添田正選手シリーズ2位!

三菱ワンメークレースシリーズの今シーズンは、「ミラージュカップ」全シリーズでの延べ参加台数が、前年の539台を大きく上回る576台と、大盛況のうちに幕を閉じました。シーズンも半ばを過ぎてからは、各シリーズで伝統の大激戦が展開されました。さらに、今シーズンからの「予選・決勝通じて使用できるタイヤは4本」というタイヤレギュレーションもあって、4シリーズとも最終戦まで息の抜けない接戦となりました。

ミラージュ・カープラザカップ・シリーズでは初参戦の若手とミラージュカップ一筋といっても過言ではないベテランとの大激戦となりました。また、富士スピードウェイをCA4A型ミラージュで戦えるのは、今シーズンが最後になることから、ラスト2戦にはミラージュカップ・関西シリーズやミラージュ東北シリーズ・フォーラスカップからの遠征もみられるなど、CA4A型ミラージュのラストシーズンにふさわしい熱い戦いを関東のレースファンに見せてくれました。

その中、CMSC栃木の添田正選手が見事、今季シリーズ2位となりました。添田選手はミラージュカップ一筋のベテラン選手。今季は第1,3戦の筑波ラウンドを制し、前半のアドバンテージを生かした2位入賞でした。来シーズンの活躍も楽しみです。



シリーズ2位と健闘した添田選手と第3戦の走り。

CMSC帯広 11月2日

秋の大練習会

8月の夏の練習会に続き、今回、恒例となった秋の大練習会を開催しました。北海道はもうシーズンオフですが、当日は天候にも恵まれ、今シーズンの走り納めに集まった25台は熱い走りを見せてくれました。

参加車は引退間近の1.8ℓランサーからEVOⅣ、さらには全日本ラリーチャンピオンカーのミラージュも参加し、いつもの通り走り比べをして、モータースポーツ談議に花を咲かせました。

最近ではチーム員のアクティビティが下がり気味で、練習会を開けばある程度人は集まりますが、公式戦への参加は寂しい状況が続いています。来シーズンはいかにしてチーム員の活動を盛り上げるかが課題です。

(CMSC帯広 中村洋次)

恒例、練習会で走り納め。





L Iクラス 群馬 鈴木真澄選手 6位



AIVクラス 札幌 宝田芳浩選手 6位(全日本8位)



AIVクラス 香川 森 新次選手 28位(G地区5位)



L IIクラス 浜松 西川美佳選手 6位



AIVクラス 岐阜 榎田正文選手 7位(全日本7位)



CIIIクラス 大阪 大竹公二選手 11位(E地区1位)



A IIクラス 浜松 相原保雄選手 7位(全日本6位)



AIVクラス 大阪 吉村 修選手 13位(E地区1位)



CIIIクラス 山形 八島功敏選手 15位(B地区2位)



A IIIクラス 札幌 谷口浩二選手 3位(全日本5位)



AIVクラス 福島 須田行雄選手 17位(B地区2位)



Dクラス 広島 河内 渉選手 6位(全日本4位)



A IIIクラス 香川 三木利夫選手 22位(G地区5位)



AIVクラス 広島 岩根つもる選手 20位(F地区1位)



Dクラス 広島 平原和幸選手 15位(F地区5位)



AIVクラス 群馬 荒井信介選手 5位(全日本4位)



AIVクラス 香川 細川英昭選手 26位(G地区4位)



Dクラス 浜松 蓮池量之選手 17位(D地区2位)

ゴール目前。大差リードの福島V濃厚! 2位は?

'97チャレンジカップ

福島の快調なペースは衰えを知らず、2000の大台に乗せてきました。もう残り1月分しかありません。申告漏れの

ないようにして下さい。個人部門では、レースに動きが見られます。最終結果は次号までお待ち下さい。

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
福島	820	710	581		2111
広島	612	386	400		1398
群馬	441	466	329		1236
山形	450	445	301		1196
青森	577	412	194		1183
香川	319	394	394		1107
大阪	512.5	220	332		1064.5
帯広	378	306	248		932
浜松	307	289	321		917
札幌	381	232	248		861
道北	421	155	280.5		856.5
岐阜	182	326.5	309		817.5
栃木	204	255	107		566
島根	79	195	58		332
仙台	64	90	127		281
千葉	0	0	241		241
愛知	34	136	70		240
鹿児島	0	168	44		212
埼玉	98	46	51		195
岩手	30	0	115		145
秋田	0	8	50		58

●ラリー・ドライバー部門

小林康弘	帯広	187
丹羽浩道	千葉	174
松井孝夫	愛知	168
奴田原文雄	札幌	165
中島 律	広島	160
原口 真	鹿児島	125
細村謙一	群馬	117
鷹野健太郎	道北	117
菅野正之	浜松	113
富谷利幸	香川	111

●ラリー・ナビゲーター部門

中村洋次	帯広	167
野村佐江子	広島	160
川村知恵	道北	152.5
本島正和	浜松	89
朝岡達也	愛知	72
細村祐子	群馬	71
生井重男	帯広	66.5
福本光志	帯広	43
内藤修一	道北	42
野津康弘	福島	42

●ダートトライアル部門

秋間忠之	大阪	598
湯本 敬	山形	438
小出久美子	大阪	423
谷口浩二	札幌	366
小川 進	福島	357
河内 渉	広島	337
須田行雄	福島	326
大泉 剛	福島	316
岩根つもる	広島	308
荒井信介	群馬	282

●ジムカーナ部門

宇野慶一	青森	342
工藤裕史	青森	270
江上逸人	栃木	200
佐藤義隆	福島	192
久保田明	青森	168
三崎朋弘	帯広	153
丹羽裕一	道北	140
小館 久	青森	134
高野 聡	福島	129
古藤浩美	島根	83

●レース部門

高橋しげる	仙台	232
添田 正	栃木	162
小川日出生	山形	90
内堀篤史	栃木	77
川口法行	栃木	44

●ポイントのつけ方

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
ポイント	A 40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	1
	B 20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0.5

リタイアには予選不通過も含む

A = 全日本選手権(含む、レディースクラス)、地方選手権(除く、レディースクラス)

但し、ダートトライアルにはオールスターダートトライアル

ジムカーナにはJAF CUP ジムカーナ

レースにはミラージュカップ、NI耐久レースを含む

B = それ以外の競技会